ニュースレターくまもと

NEWS LETTER KUMAMOTO

2022.Winter Vol. 127

■発行：一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
〒860-0806　熊本市中央区花畑町4-18　熊本市国際交流会館
■Publisher: Kumamoto International Foundation（KIF)
4-18 Hanabata-Cho , Chuou-Ku , Kumamoto-Shi , 860-0806
TEL:096-359-2121/ FAX:096-359-5783
e-mail:pj-info@kumamoto-if.or.jp　URL:https://www.kumamoto-if.or.jp/

KUMAMOTO INTERNATIONAL FOUNDATION

2022年を迎えて～新年のご挨拶～

新年あけましておめでとうございます
旧年中は皆様方より多大なご協力ご支援を賜り厚く御礼申し上げます

一昨年より新型コロナウイルス感染症が地球規模で拡大し、さらに昨年末には感染力の強いオミクロン株が出現し、世界で猛威を振るっております。この新型コロナウイルス感染症が私たちに与えた影響は大きく、社会生活を一変させました。

当事業団においても、運営する国際交流会館の休館、事業の中止、延期という事態が続きました。この間も、国際交流会館2階にある熊本市外国人総合相談プラザには、外国人の方々より生活困窮の相談、在留資格の更新等多くの相談が寄せられ、日本人同様に大きなストレスを抱えていることが分かりました。

さらに、国際交流会館内外6か所で開催していた日本語教室活動がほぼ開催できず、外国人の方々が日本語会話を学ぶ機会が減り、日本語ボランティアの方々の市民活動の場もなくなりました。特に、外国人住民にとって日本語教室は、日本語を学ぶだけでなく、身近な日本人との交流を通して日本・熊本の文化、習慣や地域ルールを学ぶ重要な役割を果たしています。工夫をしながら1日も早い教室活動の完全再開を目指していきます。

一方、昨年、5年前の熊本地震から復活した熊本城天守閣の一般公開が再開されました。熊本のシンボルとして、その雄姿を再び見れることは私たちにとりまして、勇気と希望を与えるものでした。天守閣から眺める熊本は、森の都そのものであり、数百年にわたり受け継がれてきた強固な文化的基盤をもった風格ある都市だと自負しております。

その熊本市で本年3月より、「第38回全国都市緑化くまもとフェア」が開催されます。森の都の所以たるめぐみ豊かな「緑と水のまち熊本」を多くの皆様に知っていただき、私たちにおいてもこの貴重な資源を再認識する機会となればと思います。今後、当事業団は、多様な人々との共生社会を目指し、熊本市が掲げる「世界に認められる上質な生活都市」の実現に向け、より一層邁進していく所存です。さらなる皆様のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

文末となりますが、新型コロナウイルス感染症が終焉するのか、第6波がくるのか私たちには予想もできません。しかしながら、人間はそんな弱いものではないはずです。コロナに打ち勝って、新たな日常を取り戻すことができますようお祈りしつつ、2022年、年頭のご挨拶とさせていただきます。

2022年元旦
熊本市国際交流振興事業団
小野 友道

目　次

Contents

2022年を迎えて～新年のご挨拶～　・・・P1
《特集》第38回全国都市緑化くまもとフェア　・・・P2～3
《事業報告》第6回くまもとフェアトレードマルシェ、韓国文化の日　・・・P4
《事業紹介》多文化共生月間　・・・P5
インターン活動報告　・・・P6
世界を知る　青年海外協力隊OG　緒方美鈴さん　・・P7
ちょっと日本語/きふブロ/令和４年度賛助会員募集　・・・P8

特集：第38回全国都市緑化くまもとフェア

熊本市では、令和４年（2022年）3月19日（土）から5月22日（日）にかけて、市内３つのエリアを中心に、日本最大級の花と緑の祭典である「第38回全国都市緑化くまもとフェア　くまもと花とみどりの博覧会～THE GREEN VISION　未来への伝言～（以下、くまもと花博）」が開催されます。

熊本での開催は、第４回全国都市緑化フェア「緑と水の博覧会クマモトグリーンピック‘86」以来、36年ぶり2回目となります。

今回のくまもと花博における開催テーマ「森と水の都くまもとで　花と生きる幸せをつむごう」は、先人たちが守り受け継いできた熊本の大切な魅力の一つである恵まれた自然を再認識し、花や緑に囲まれて暮らすことの幸せについて、一人一人が次世代へと繋ぎ、未来へと託していくことを表しています。

くまもと花博は市内３つのメイン会場を中心に開催されます。

まず、花畑広場と熊本城公園を中心とした「街なかエリア」では、くまもと花博フラワーアンバサダーで、国内外で活躍されているフラワーアーティストのニコライ・バーグマン氏監修による大花壇が花畑広場にお目見えする予定です。長さ約１８０ｍにもおよぶ大花壇は、

熊本県産の花きおよそ７万株を使用した大花壇となり、会期の前半、後半で色味を変えて登場する予定です。

また、５月１８日から２２日にかけては、熊本城ホールにおいて、バーグマン氏による作品展示を行う予定です。更に、５月７日からは、日本一の長さを誇る通称「長塀通り」の川沿いで、熊本地震から５年を経て復旧が完了した熊本城天守閣をバックに、ナイトプログラムとして「竹あかり」が催されます。日中はもちろん、熊本の夜も満喫いただけること請け合いです。

そのほか、くまもと花博の特別衣装を身にまとったくまモンの立体花壇や、全国の造園技術者が集結し技を競い合うガーデンコンテスト、各アーケードでは週末に各種アレンジメント教室等も実施される予定です。花やみどりの鑑賞にとどまらず、実際に花やみどりに触れて癒される体験ができます。

更に、花畑広場では、県内すべての45市町村等による地元特産品等を販売する「くまもとマルシェ」や「みどりのマルシェ（ミニ植木市）」が開催されます。

次に、水前寺江津湖公園一帯の「水辺エリア」では、

くまもと花博を機に動植物園の植物ゾーンが35年ぶりにリニューアルされます。具体的には、フェア開催に併せ、熊本県産花き約18万株を使用し、季節の花々が咲き誇る4000㎡にもわたる大花壇がお目見えします。

期間の前半は、火の国熊本の力強さを連想させる赤系の配色、後半は、熊本の豊かな水を連想させる青系の配色を意識した花々が、皆様をお出迎えいたします。訪れた方々を、彩り豊かな花の美しさで魅了することはもちろんのこと、豊かな水を広くアピールし、その価値を再認識できるきっかけとなればとの願いを込めています。

また、江津湖のほとりに位置する素晴らしい立地にある動植物園内に江津湖の美しい眺望を楽しんでいただけるよう、約１００ｍの展望デッキを新たに設置される予定です。さらに、江津湖に生育・生息している希少な植物や動物等をはじめ、江津湖の自然環境を直接体験しながら学べる施設として、動植物園の西門横に、アクアリウムやタッチプール、多目的コーナーが設置されますので、お子さん連れにも楽しんでいただけるかと思います。

その他、日頃から水前寺江津湖公園で様々な活動をされている皆さんとのタイアップで、カヌーやサップを使った湖上散策や自然観察会などの水と緑の豊かさを感じるイベント等が用意されているほか、熊本で人気のお店が集合するおしゃれなマルシェ「江津湖living」も開催されます。

そして、「まち山エリア」の会場である立田山には、県産の木材を使った大型の木製遊具などが新たに設置される予定であり、さらには期間限定で、ツリーハウスも登場する予定です。また、県産の木材や竹材を用いた木育イベントや、新たに設置した木製ステージにおいて、森の音楽会も開催予定であり、新緑の心地よい空間の中、日頃の喧騒を忘れ、癒しのひと時を体験頂けると思います。

また、立田山には、希少な植物やたくさんの野鳥が生息していることでも知られており、それら貴重な動植物の観察を通して立田山の魅力を再発見していただく契機としていただけたらと思います。

このほか、県内すべての市町村の花や緑の名所をパートナー会場とし、この機会に周遊いただくことで、自然豊かな熊本の魅力をお伝えできるようなイベントを展開していく予定です。

今回のくまもと花博では、開催期間中、街なかエリアの花畑広場において、熊本市の姉妹都市であるアメリカ・サンアントニオ市と交流都市であるフランス・エクサンプロヴァンス市の２都市の魅力を紹介する「姉妹都市ウィーク」を実施します。

この両市には、熊本市が協力して整備された日本庭園があります。アメリカ・サンアントニオ市には、両市の姉妹都市締結を記念し、1989年に「熊本園」と名付けられた日本庭園が整備されました。しかしながら、開園から30年以上が経過し、近年では施設の老朽化が問題となっています。また、フランス・エクサンプロヴァンス市でも、能楽師である狩野琇鵬（熊本市・故人）氏により寄贈された、日本国外では唯一となる総檜の能舞台があります。これを核とした日本庭園を整備するにあたり、専門知識や技能者の不足という問題がありました。

そこで、交流事業の一環として本市への技術支援の要請があり、今回の「くまもと花博」をきっかけに一般社団法人熊本市造園建設業協会と協力し、それぞれの姉妹都市、交流都市の職員と一緒になって日本庭園再生事業に取り組んでいます。

「くまもと花博」では、それら海外日本庭園再生プロジェクトの発信・紹介だけでなく、幅広い交流事業の中でそれぞれの街の歴史や音楽などの文化的魅力や特産品、食文化の紹介など、これからより一層の交流拡大につながるような楽しく興味深いイベントを計画しています。

４月２０日（水）から２４日（日）までをエクサンプロヴァンスウィーク、４月２７日（水）から５月１日（日）までをサンアントニオウィークとして、それぞれの都市を紹介するブースの出展を行います。エクサンプロヴァンス市やサンアントニオ市との交流のあゆみ、両市の観光地や歴史、文化の紹介、ワークショップを通じて理解と交流を図ります。この姉妹・交流都市ウィークをきっかけに両市が熊本市の姉妹都市・交流都市であることをより多くの方々に知っていただき、より身近に感じるようなプログラムを提供したいと考えています。

エクサンプロヴァンスウィークは、フランス南部で市民の方に親しまれているスポーツ「ペタンク」の体験をはじめ、写真やパネルによるエクサンプロヴァンス市の紹介、特産品の販売やフランス荘園を模したブースを予定しています。

また、サンアントニオウィークでも特産品の販売やTEX－MEXと呼ばれる料理の紹介、ワークショップ、広場内でのマリアッチによる音楽やダンス等を予定しています。

コロナ禍の中での開催となりますが、感染症対策を十分に行いつつも姉妹都市ウィーク会場の雰囲気やワークショップ体験等を通じて来場者の皆様との交流を図り、両市の魅力に出会うきっかけを創出します。

是非多くの皆様のご来場をお待ちしております。

※くまもと花博の内容は2021年12月末時点の予定であり、変更になる場合がございます。
お出かけの前にご確認ください。

公式ホームページ　https://kumaryokkafair.com

第6回くまもと・フェアトレード・マルシェ

2021年11月14日（日）熊本市中央区のびぷれす広場において、「第6回くまもとフェアトレードマルシェ」を開催しました。熊本でフェアトレードに取り組んでいる企業・団体が集まり、熊本でのフェアトレード活動を広めるためのイベントとして毎年開催していて、今回で6回目を迎え11団体の参加がありました。フェアトレードのコーヒーやチョコレート、ジャムのほか、雑貨に加え地産品を使った商品、オーガニック製品などいろいろなエシカル商品が販売されました。特に今回は、参加した団体が日頃の活動や取り扱っている商品を会場内に設置したステージ上で、プロジェクターを使ってスライドや動画、またYouTubeやホームページなどでも紹介しました。その他、パネルを設置し、フェアトレードの仕組みをわかりやすく説明したポスターを掲示するなど、少しでもフェアトレードへの興味、理解が進むよう工夫しました。来場者の方々はその紹介に耳を傾け、掲示したポスターに足を止め、出店団体の方々と話をしながら、商品を購入されていました。たくさんの方にご来場いただき、盛況のうちに終了することができました。

また、今回は来場者約100名に対しアンケート調査を行いました。「フェアトレードを知っていますか」の問いに対し、約7割の方が知っているとの回答がありましたが、「フェアトレードを説明できますか」の問いでは、約半数の方が説明できないと回答されました。説明できると回答された方の多くは、「途上国支援」がキーワードになっていました。さらに、「フェアトレードの商品を買ったことがありますか」の問いでは、「買ったことがある」が約3割、「無回答」が約5割でした。無回答はどの商品がフェアトレード商品か分からないというものでした。

結果として、フェアトレードはある程度知られてきましたが、認知度を上げるためには、マルシェのように直接、出店団体等フェアトレードを実践している方々から説明を聞いたり、商品に触れたり、見たりする機会を増やすことがとても重要だと思いました。

熊本―蔚山友好協力都市締結10周年記念行事　10周年＋１“新たな一歩” with 韓国文化の日

2021年12月5日（日）、熊本市、駐日本国大韓民国大使館韓国文化院 との共催で国際交流会館にて「熊本―蔚山友好協力都市締結１０周年記念行事　10周年＋１“新たな一歩” with 韓国文化の日」を開催しました。

熊本市と韓国の蔚山市は2010年に「友好協力都市」の締結を結び、これまで様々な交流を続けてきました。2020年は、締結10周年の記念行事が実施される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響の為、記念イベントの開催はできませんでした。そこで11年目となった2021年の12月に10+1（テン　プラス　ワン）と題して記念イベントを開催しました。当日のイベントは1階のバザーコーナー、2階の蔚山市紹介、5階の韓国文化体験教室、そして６階ホールでは映画や伝統文化等の公演を行い、国際交流会館全館で韓国を体験できる日となりました。

ホールにて駐日韓国大使館より友好協力都市締結10周年を迎えたお祝いの言葉をいただき、「閑良舞（ハルリャンム）」や「コムンゴ」等の伝統芸能、テコンドー演武やK-POPカバーダンスの公演が披露されたました。その後、テコンドーとK-POPダンスの体験教室が開催され、最後は韓国で歴代興行収入No.1の大ヒット映画「エクストリームジョブ」の上映が行われました。

5階の大広間では韓紙で提灯をつくるワークショップとハングル文字を筆書きするハングルカリグラフィーの教室が開催され、特にハングルカリグラフィーは予定されていた3回の教室が全て予約で満席になるなど韓国文化に対する関心の高さがうかがわれました。

2階では熊本市の韓国国際交流員のイ・ヨンス氏による韓国・蔚山市を紹介する「異文化カフェ」が、午前は日本語、午後は韓国語で行われ、それぞれ約30人の参加があり、大変盛り上がりました。その他にも韓国の童話を韓国語と日本語での読み聞かせと、ぬり絵のワークショップも開催され、親子連れでの参加者に好評でした。

1階エントランスホールでは韓国に関する商品の物販が行われ、チヂミやキンパ、キムチといった馴染みのある韓国料理から韓国マカロン等のスイーツも人気で、お昼過ぎには完売の商品もありました。

また韓国宮廷衣装（王様、王妃様）を着たスタッフの館内巡回や撮影会、そしてイベントボランティアの方々も韓国の伝統衣装である韓服を身に付け、まさに韓国を感じられる一日となり大盛況に終わりました。

多文化共生月間　令和４年（2022年）２月開催

毎年2月を「多文化共生月間」として、今年も熊本市に生活する外国人についてのパネル展やシンポジウムを開催します。今後も増加していくと思われる外国人住民にも住みよい社会を、私たちが一緒になって作っていくにはどうしたらいいのか、ということを考える機会になればと思います。

「多文化共生」という言葉をよく耳にする様になりました。

この「多文化共生」という言葉に皆さんはどの様なイメージをお持ちですか？「多国籍で、いろんな文化背景を持つ人々が一緒に暮らす社会」などでしょうか。

実際、私たちが暮らす熊本市においても、外国人住民数は増加しています。街中のコンビニエンス・ストア等でアルバイトとして働く外国人の店員さんや日本語学校に自転車で通う留学生等、電車やバスの中でも外国語を耳にすることが多くなりました。背景には世界的なグローバル化が進み国境を越えた人々の往来が増えたことや、少子高齢化が進み労働人口の減少による人手不足などの差し迫った状況も要因の一つとして考えられます。

平成18年（2006年）に総務省が策定した「地域における多文化共生推進プラン」では、「多文化共生」を「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されています。様々な国籍、文化背景を持ち価値観も違う人たちが違いを認め合い、対等な関係を築き地域社会で共に生きること。言葉で書くと簡単ですが、実際の社会の中で国籍、文化背景、育ち方も違う人と共に過ごすと考えると、とても大変なことに思えてきます。しかしよく考えると、私たちは普段の生活でも「多文化共生」を実践しているのではないでしょうか？生まれも育ちも違う人間が一緒に学校生活を送り、会社などの組織で働き、家庭を持ち、新しい家族を持つこと、これらは全て「一つの共生の形」と言えると思います。

本年度も２月１日からの「多文化共生パネル展」を皮切りに、様々な催物を開催していく予定です。特に２月26日（土）に予定している「多文化共生シンポジウム」では「多文化共生」や「移民施策」などの著作も多い、公益財団法人日本国際交流センター執行理事の毛受敏浩（めんじゅ　としひろ）氏を基調講演者としてお招きし、「外国人住民と地域の共生を考える～ポストコロナ時代を見据えて～」をテーマにお話しいただきます。また、熊本県内の各外国人相談窓口に寄せられている相談から外国人住民と共に生きる為に必要な取組を考える事例報告会も開催します。詳しい内容・申込方法等は熊本市国際交流振興事業団ホームページからご確認ください。

（一財）熊本市国際交流振興事業団ホームページ　https://www.kumamoto-if.or.jp

多文化共生月間イベントスケジュール

日付	時間	イベント名	会場
2月1日（火）～28日（月）	9時～22時	多文化共生パネル展	1階エントランスホール
2月5日（土）	10時～11時45分	JIXA/JICAコラボカフェ　人工衛星を作って学ぼう！	2階交流ラウンジ
2月5日（土）	14時～15時半	多文化サタデー　「イスラムコミュニティ」	2階交流ラウンジ
2月12日（土）	14時～15時半	多文化サタデー　「ベトナムコミュニティ」	2階交流ラウンジ
2月17日（木）	14時～15時半	CIRカフェ　「世界の多文化共生」	2階ミーティングルーム
2月18日（金）	13時～15時	熊本留学生交流推進会議 多文化共生シンポジウム～みんなが知っている昔話～	オンライン
2月18日（金）	18時～20時	JICAコラボ映画会 「ムヒカ　世界でいちばん貧しい大統領から日本人へ」	6・7階ホール
2月19日（土）	10時～11時半	多文化サタデー　「ネパールコミュニティ」	2階交流ラウンジ
2月19日（土）	13時～15時	フェアトレード啓発セミナー	2階交流ラウンジ
2月26日（土）	14時～17時	多文化共生シンポジウム 「外国人住民と地域の共生を考える　～ポストコロナ時代を見据えて～」	6・7階ホール

～インターン活動を振り返って～　　熊本学園大学２年　篠原愛里さん、増田彩那さん

2021年9月から12月までの３ヶ月間にわたり熊本学園大学生のインターン研修が行われ、事業の準備・実施を通して様々な国際交流事業に携わってくれました。

１．研修について

インターンの活動を始めるにあたり、国際交流会館で行われている事業や多文化共生、SDGs、国際協力などの取り組みについて学びました。国際交流会館で実施されている事業は、県内各地域で日本語教室を開催したり、熊本に住んでいる外国人に必要な生活情報を提供したりと、ライフサポートがとても充実しているところが特に印象深かったです。また、多文化共生社会の実現のために、互いの文化・価値観を認め合い、対等な関係を築くことが大事だと感じました。この考え方は、大学で学んでいるホスピタリティと似ており、対等な関係を持つことの重要性を改めて認識することができました。

次にSDGsについてです。SDGsは持続可能な開発目標ということで、世界が抱える問題を１７の目標と１６９のターゲットに整理したものだと知りました。SDGsのデザインは、誰もが見やすいように工夫されおり、色鮮やかで目に留まりやすいマークにしてありました。１７の目標を達成するには、一人一人がSDGsについてきちんと理解し、課題を解決するために、どうすればいいのか、あらゆる視点から考えることが重要だと気づかされました。

２．インターン活動について

私たちは、主に「くらしのにほんごくらぶ」や「JLPT日本語教室」という外国人向けの日本語教室、異文化カフェという外国文化を紹介する事業の受付や進行のお手伝いをしました。その中でも、韓国文化の日のイベントとフェアトレードマルシェのイベントがとても印象に残りました。

まず、韓国文化の日のイベントで、私たちは当日のタイムスケジュールや各階の案内看板を作成しました。タイムスケジュールではどのようにすれば皆さんが見やすい表になるのか、また、案内看板作成では分かりやすくホスピタリティの「おもてなし」の気持ちを込めて励みました。この経験から、イベントでの見えないところでの仕事の大変さや重要性を学ぶことができました。この、見えないところでの作業をいかに慎重にできるかで、イベントの成功度も変わってくると思いますので、このような経験ができ、とても良かったです。

また、フェアトレードマルシェでは、実際にフェアトレードに関するアンケート調査を行いました。最初は普段話さないような年齢層の方に声をかけることがなかなかできずにいましたが、徐々に慣れていき、最終的には目標としていた１００人の方にアンケートをとることができ、とても達成感を得ることができました。

３．今後に活かしたいこと・目標

（篠原）私は幼いころから空港のグランドスタッフとして働くことが夢で、そのためにもインターン活動の３か月間でより多くの外国人の方と交流したいと思い、インターンシップ先をこの国際交流会館に決めました。実際に活動を通して、国独自の文化だったり、話す言語だったり、毎日驚くような発見ができ、そして今まで考えてこなかった「多文化共生」について考えることができたので良かったです。

私は、このインターン活動をするまでパソコンを使用したことがあまり無く、最初にチラシを作成する時は、文字の入力で手いっぱいでした。しかし、職員の方にどのようにすればよりよいチラシになるかをアドバイスしていただいたおかげで、後半は自分なりに満足のいくチラシを作成することが出来ました。そして、各イベントでは私たちホスピタリティ・マネジメント学科で専門的に学んでいる、「おもてなし」を意識して参加する中で、私が思いつかなかったちょっとした気遣いや、多国籍の方をもてなす心得を学び、吸収することができたので良かったです。今までの３ヶ月間の活動経験の中で、就職活動や社会に出てから活かせることは沢山あると思うので、これからも自信をもって沢山の事にチャレンジしていきたいと思います。

（増田）３ヶ月間のインターンシップで、色んな経験をし、いろいろな方と関わらせていただきました。特に、外国の方とコミュニケーションが取れたことは、とても貴重な経験だったと実感しています。インターンシップに来るまでは、外国の方にどのように接していいのか分からなかったのですが、「やさしいにほんご」の存在を知ったときは、感心しました。私は、将来サービス業に就きたいと思っています。そのとき、外国の方と関わることがあるかもしれないので、今回学んだ「やさしいにほんご」を使いたいと思っています。そして、今回インターンシップの業務だけでなく、ボランティアの活動にも参加し、人との繋がりがたくさんできました。この繋がりを大切にし、日々の生活でもいろいろな方とコミュニケーションを取っていきたいと思います。

世界を知る

このページでは、「世界を知る」をテーマにJICA（独立行政法人国際協力機構）デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆さんのご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

「キルギスとの出逢いで変わった人生観」

青年海外協力隊　2019年度3次隊　緒方　美鈴（おがた　みすず）さん
（2019年8月～2021年8月　キルギス派遣　職種：体育）

中央アジアのスイスと呼ばれ、水資源が豊富で自然豊かなキルギス共和国で、体育隊員として活動していました。首都ビシュケクの標高は800m、生活していたタシュドボ村は1300mほどで、国土の約４割が標高3000mを超える山岳地帯です。30年前に旧ソ連から独立を遂げた比較的新しい国です。

バスケットボールクラブの生徒たち

日本のような体育の授業を、バスケットボールを取り入れて行って欲しい、という強い要望を受け、村の全寮制の学校で体育の授業を行いました。また、言語教育が盛んな学校だったため、日本文化やひらがなを教え、オンラインで日本の学校との交流による相互の関係を深める活動を行ってきました。実際にこの目で見たキルギスの教育現場の状況は、子供たちの識字率は高いのですが、OECDの行うPISA（学習到達度調査）で2006年に加盟国の中では最下位であり、教員・教材の質の問題など様々な課題に直面していました。このような問題が学校現場で浮き彫りの状態では、単純に体育の授業での課題を対処し、日本式の授業についてやバスケットボールの技術を教授するだけでは、その場しのぎの対応ではないのか、と頭を抱え自分の力不足を思い知らされました。体育教員として、一ボランティアとして、自分にしかできないことはなんだろうと日々考えて活動を行っていました。

2020年4月、全世界がコロナの脅威にさらされると、私たちは強制的に日本へ帰国することとなりました。その後、再赴任できる時期を待ち続けましたが、その間も、子供たちの笑顔や楽しそうに授業に参加する姿が思い出されましたし、ホストファミリーや現地で助けてくれた友人たちに恩返ししたい、という気持ちがどんどん大きくなっていきました。キルギスは2021年4月に派遣が再開され、残された期間は相互理解の分野で首都ビシュケクにて、日本に向けたキルギスを広める活動を新たに始めました。

実際にキルギスでの活動期間は1年弱でしたが 、それは私にとってかけがえのない時間で、人生の価値観が変わる大きなきっかけを与えてくれました。派遣当初、「私はボランティアなのだから、この国の人たちの困っていることを助けないといけない！教育の質を上げないといけない！」と熱く使命感に燃えていましたが、実際に暮らす中では私の方が助けてもらってばかりで自分が来た意味がないのでは？と嫌になることもありました。科の同僚の先生兼ホストファザーが私に「とことん私たちキルギス人に助けられなさい」と何度もいってくれたことは、今も頭から離れません。また再赴任して病気になった時に、友人やその家族から「もっと私たちを頼りなさい、助けてもらうことを恥ずかしがってはいけないよ」といってもらいました。それらの言葉を自分なりに理解できた時から、私は一人の人間としてもっとこの人たちと時間を共有していこう、困ったら助けてもらっていいんだ、その中で私が手伝えること、できることをやっていけば自ずと私がここにいる意味があるのだ、と考えることができるようになりました。そして大自然の中で生活をし、厳しい環境でも生きる術を教えてもらいました。ボランティアは２年という短い任期で終了しましたが、私にとっての国際協力は始まったばかりだと考えています。この2年間の経験を通して、少しずつキルギスの抱える課題や問題を一緒に解決できるようにこれからも自分なりの方法で、活動を続けていこうと思います。

おわりに、私のお気に入りのキルギス語の表現で「Ｋｕдай буюрса（クダイ　ブユルサ）＝神の願うままに」という言葉があります。どうにかなるさ、神が願うようになるよ、という意味で、ネガティブに物事を捉えない考え方です。キルギス生活の中で、この言葉に精神的にとても救われました。私がキルギスで生活をしてきて、この国の人々と関わるとき、彼らが自らの歴史・伝統・文化に誇りを持って生きていることを強く感じました。日本人の私からすると、彼らの多くは人に優しく、おおらかであり、楽観的に人生を前向きに楽しく生きているように思えます。かつて厳しい自然の中で遊牧生活を営み、常に周囲の勢力による侵略や支配に脅かされつつ一族で助け合って命を繋いできたキルギスの人々は、日本人とは異なる価値観で生きていると感じます。だからこそ、私たち日本人が彼らの考え方や生き方に触れ、感じることで得られるものがあるのではないでしょうか。

チョンケミン国立公園にて

JICAデスク熊本について

JICA海外ボランティア（青年海外協力隊、シニア海外協力隊）や国際協力に興味がある方はJICAデスク熊本までお問い合わせ下さい
熊本市国際交流会館2階
午前9時～午後6時（日曜、月曜休み）
TEL：096-359- 2130
E-mail：jica-desk.kumamotoshi@jica.go.jp

ちょっと日本語 Japanese Tip

NPO法人日本語サポートあさ
代表　小川　ひろみ さん

日本語教師病

外国語としての日本語の教科書の中には一般的な日本語とは違う「ちょっとヘン」な表現があります。そしてだんだん「ヘン」が普通になってしまうことがあります。これは日本語教師病です。例えば、ほとんどの日本語の教科書で形容詞や「～たい」の否定は「～くないです」がルールになっていて、口頭練習などで繰り返します。

①「結婚したいですか。」→　「いいえ、結婚したくないです。」

②「車が欲しいですか。」→　「いいえ、欲しくないです。」

一般的な場面でこのように言うでしょうか。　さらに日本語母語話者の教師でも日本語教師病が重篤になると、教師先導でこんな日本語が教室で飛び交いはじめます。

①「リンさんは佐藤さんと結婚したくないです。」

②「リンさんは車がほしいですか。」「いいえ、リンさんは車がほしくないです。」

コロナ禍で感染が蔓延する中、日本語教師病もまずは「ちょっとヘン」と感じることが予防の第一歩だと思います。

きふブロ　インターンシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが綴るKIFのアクティビティ

インターネットではもっとたくさん紹介しています。
http://blog.goo.ne.jp/kifblo

こんにちは。インターンシップ生として活動を行っています、中根です。

インターン活動１０日目。インターン活動最終日でした。午前は「くらしのにほんごくらぶ」があり、私も一緒に混ざって活動しました。私が参加したグループの方は日本にきて６年目の方で日本語もある程度話せる方で、最初は世間話をしていましたが、後半は問題集を使用し一緒に問題を解きました。その問題は日常生活で使用している一般的なものでしたが、いざ問題として見てみると日本語は一つの言葉でいくつかの意味を持っているためややこしく感じました。それと同時に外国人の方に理解してもらうためにボランティアの方はどういった説明をしているのか気になりました。ボランティアの方は何度もゆっくりと外国人の方が理解できるまで説明していたことが印象に残っています。午後からはインターン生の４人で「グローバル人材」について話し合いました。その話の中で「どうしたら熊本でグローバル人材を育成できるのか」という問題を提起し、それぞれの意見を出し合いました。私の意見として熊本県は国際交流のプログラムが多いため、それをどんどん広めることで多くの人に参加してもらうことを挙げました。他のインターン生の意見も様々でとても有意義な時間を過ごせました。インターン活動は今日で終わりますが、今後も今回活動し学んだことを生かしていきたいです。

（中根陸さん　九州東海大学　9月24日～10月17日　10日間のインターンシップ）

☆2022（令和4）年度賛助会員募集中！☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。
会員の方々には、当事業団の機関誌『ニュースレターくまもと』の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。

①個人会員　　一口　　2,000円/年(一口以上)　②団体会員　　一口　　10,000円/年(一口以上)

私たち、熊本市の国際交流を応援しています。

阿蘇医療センター、一般社団法人熊本市医師会、一般社団法人熊本市造園建設業協会、学校法人君が淵学園崇城大学、株式会社セイラグロース、熊本県行政書士会、熊本赤十字病院、熊本日独協会、熊本日米協会、熊本保健科学大学、熊本労災病院、国保水俣市立病院総合医療センター、国立病院機構熊本医療センター、社会医療法人寿量会熊本機能病院、社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院

（2021年12月31日までにご加入いただいた団体の皆様）50音順（敬称略）

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

住　所：熊本市中央区花畑町４番18号
　　熊本市国際交流会館
休館日：第２・第４月曜日、年末年始（12月29日～1月3日）
ＴＥＬ：096-359-2121
ＦＡＸ：096-359-5783
E-mail：pj-info@kumamoto-if.or.jp
ＵＲＬ：https://www.kumamoto-if.or.jp